

### 連結決算ハイライト

当上半期は、欧米での金融引き締めやウクライナ情勢の長期化、部材および資源価格の上昇等により、景気の先行きは不透明な状況で推移しました。

国内では、各都道府県において医療提供体制の見直しが進められるとともに、2024年施行予定の「医師の働き方改革」に向けたタスクシフトや業務の効率化が推進されています。海外では、欧米において看護師不足や金利上昇の影響が残る中、先進国、新興国ともに医療従事者の負荷軽減に資する医療機器の需要は概ね堅調に推移しました。

当上半期の売上高は前年同期比9.7%増の1,035億3千6百万円となりました。部材価格の上昇を受けて進めてきた価格適正化の取り組みも増収に寄与しました。利益面では、人員の増強や研究開発投資等により販管費が増加しましたが、増収効果により、営業利益は前年同期比3.8%増の74億9千1百万円、経常利益は為替差益の減少により前年同期比3.6%減の125億4千6百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比6.4%減の79億9千7百万円となりました。

### <国内市場>

国内売上高は前年同期比5.0%増の657億8百万円となりました。市場別の取り組みを強化するとともに、消耗品・サービス事業の強化に注力した結果、全ての市場で増収となりました。新築移転に伴う大口商談の受注もあり、大学、私立病院市場が好調に推移したほか、官公立病院、診療所市場も堅調でした。商品別には、生体計測機器、治療機器、生体情報モニタが好調に推移しました。その他商品群は前年同期並みにとどまりました。

### <海外市場>

海外売上高は前年同期比19.1%増の378億2千8百万円となりました。米国子会社再編に伴うデフィブテック LLCの決算期変更の影響\*に加え、中国での感染再拡大に伴う生体情報モニタ等の整備もあり、二桁成長となりました。地域別では、米州、アジア州他が好調に推移しました。欧州は現地通貨ベースでは減収でしたが、円ベースでは増収となりました。

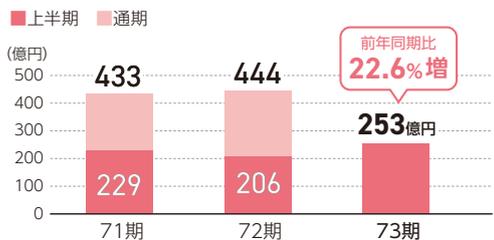
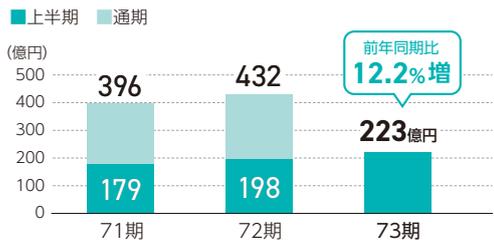
\* 米国子会社再編に伴い、デフィブテック LLCの決算日を12月31日から3月31日に変更しています。当上半期は、2023年1月1日から2023年9月30日までの9ヵ月決算を連結しています。

### 商品群別の概況 (連結)

#### ① 生体計測機器

脳波計、筋電図・誘発電位検査装置、心電計、心臓カテーテル検査装置、診断情報システム、関連の消耗品(記録紙、電極、電極カテーテルなど)、保守サービスなど

国内	診断情報システム、脳神経系群が二桁成長となりました。検査件数の増加に伴い、心臓カテーテル検査装置群、心電計群も好調に推移しました。
海外	脳神経系群が、底堅い需要により、全ての地域で好調に推移しました。心電計群も中国での売上回復によりアジア州他で好調に推移しました。



#### ③ 治療機器

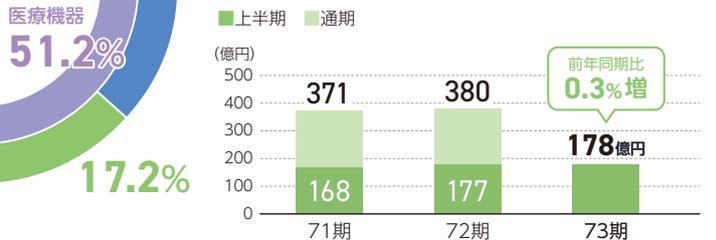
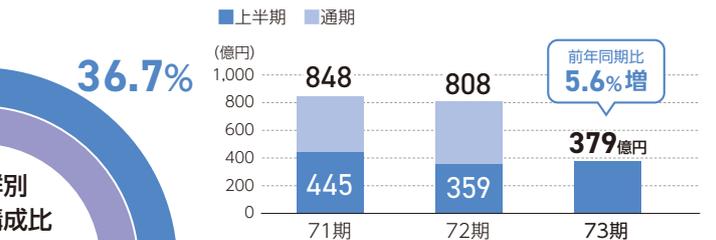
除細動器、AED、人工呼吸器、心臓ペースメーカー、麻酔器、人工内耳、関連の消耗品(電極パッド、バッテリー、アブレーションカテーテルなど)、保守サービスなど

国内	AED、ペースメーカー・ICDの売上回復もあり、好調に推移しました。人工呼吸器はコロナ関連需要の一服により、前年同期を下回りました。
海外	AEDが決算期変更の影響を除いても好調に推移したことから、二桁成長となりました。人工呼吸器、除細動器は前年同期を下回りました。

#### ② 生体情報モニタ

セントラルモニタ、ベッドサイドモニタ、バイタルサイントレメータ、臨床情報システム、関連の消耗品(電極、センサなど)、保守サービスなど

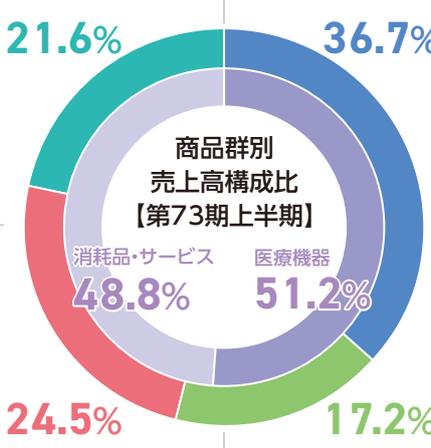
国内	大口商談もあり臨床情報システムが大幅増収となったほか、センサ類など消耗品も好調に推移しました。送信機、ベッドサイドモニタは前年同期を下回りました。
海外	米州が米国、中南米ともに二桁成長となりました。欧州、アジア州他は前年同期を下回りました。



#### ④ その他

血球計数器、臨床化学分析装置、超音波診断装置、消耗品(試薬、衛生用品など)、設置工事・保守サービスなど

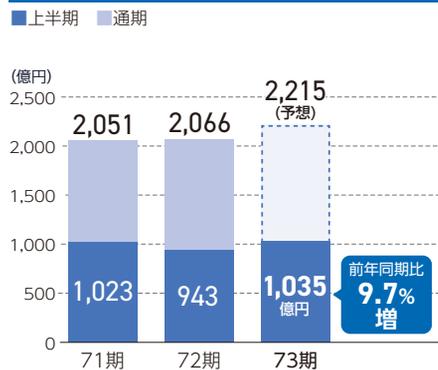
国内	検体検査装置の試薬や医療機器の保守サービスは好調に推移した一方で、画像診断装置が減収となり、前年同期並みにとどまりました。
海外	血球計数器・試薬が欧州、中南米で減収となった一方、アジア州他では前年同期を上回り、前年同期並みにとどまりました。



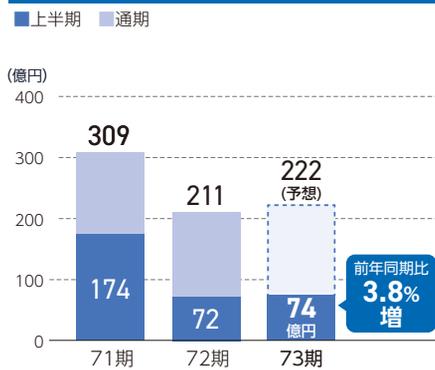
# 上半期連結決算ハイライト

本資料に記載されている内容は、将来に関する前提、見直し、計画に基づく予測が含まれており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

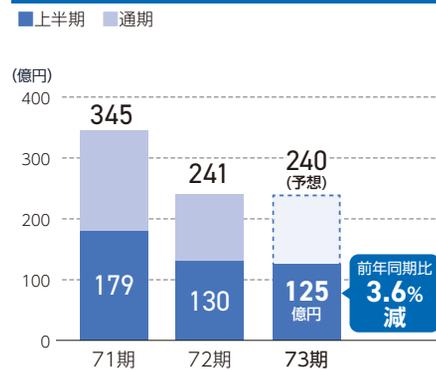
## 売上高



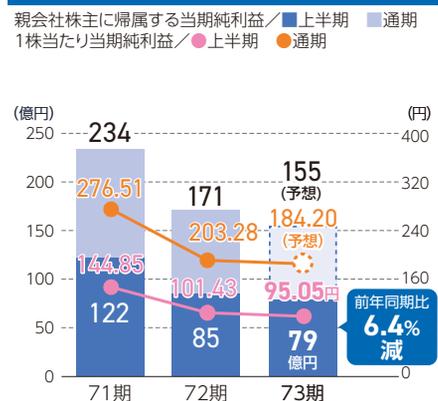
## 営業利益



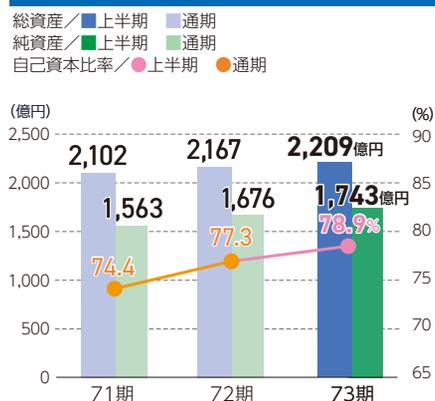
## 経常利益



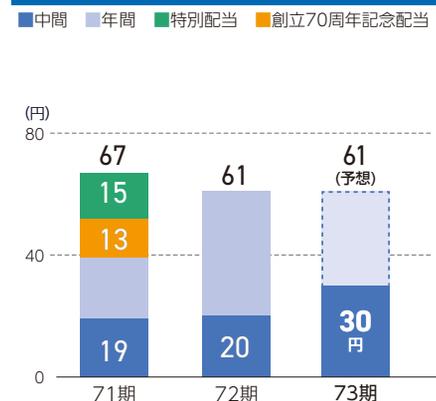
## 親会社株主に帰属する当期純利益 / 1株当たり当期純利益



## 総資産 / 純資産 / 自己資本比率



## 1株当たり配当金



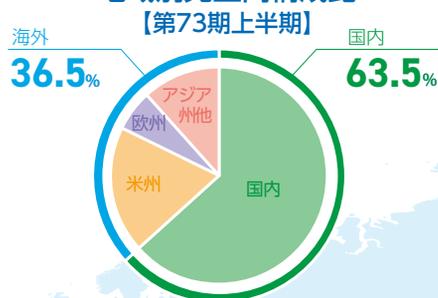
### 利益配分に関する考え方

優先順位については、①研究開発や設備投資、M&A・提携、人材育成など将来の企業成長に向けた投資、②配当、③自己株式取得としています。連結配当性向は30%以上を目標としています。

## 地域別の概況 (連結)

米州では、米国が治療機器、生体情報モニタを中心に二桁成長となりました。中南米は、メキシコは好調だったものの、ブラジルが低調に推移しました。欧州は、イギリス、オランダは好調でしたが、ドイツが好調だった前年同期を下回りました。アジア州他は、中国が感染再拡大に伴い生体情報モニタ等の需要が増加し大幅増収となったほか、中近東、ベトナムが好調だったことから、二桁成長となりました。

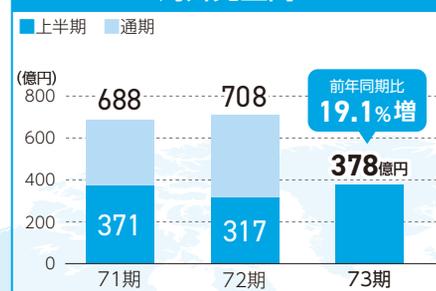
### 地域別売上高構成比



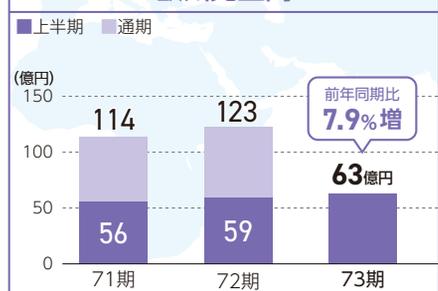
### 国内売上高



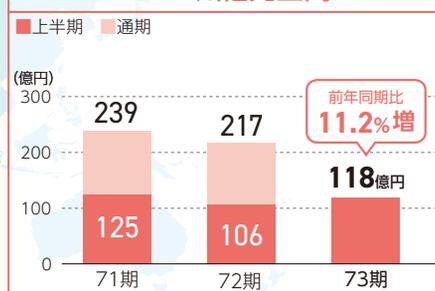
### 海外売上高



### 欧州売上高



### アジア州他売上高



### 米州売上高

